

令和 5 年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校

学校関係者評価書

対象校：横浜市立 戸塚高等学校
定時制

調査全体の日程

調査日：令和5年8月24日（木）～2月21日（水）

調査対象校：横浜市立 戸塚高等学校 定時制

調査チーム：学校運営協議会

記録等担当者：副校長 小島 孝道

1 第4期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□総合的な探究の時間の取組

「表現プログラム」を実施。演劇祭で表現することを通して学びを实践。
各クラスでの演劇上演までの過程の中でも学びの重要な実践となっている。

□魅力ある学びの創出に向けた取組

○学校設定科目：「学びなおし」

1、2年生では「基礎学習」「発展学習」自分の進度に合わせて基礎学力（国語・数学・英語）に取り組む。3、4年生では「実践学習Ⅰ、Ⅱ」Ⅰでは地域と連携した課題解決の学びを实践し、進路に向けたキャリア教育の实践に取り組む。

○「表現プログラム」

□多様化する生徒への支援

○地域や関係機関と連携した取組

・子ども食堂「がじゅまる」との定期食事会

食育・他学年交流・外部機関との接点づくりを目的に実施

場所：踊場地域ケアプラザ 月1回 14：30-17：00 10～20名が参加

参加団体：子ども食堂がじゅまる、フードバンク浜っ子南、よこはまユース、
横浜メンタルサービスネットワーク、YSSW

・校内カフェの実施

食育、他学年交流、外部機関との接点づくりを目的に実施

場所：戸塚高校、家庭科室 月1回 20：45-21：30 30人程度が参加

参加団体：子ども食堂がじゅまる、フードバンク浜っ子南、よこはまユース、
横浜メンタルサービスネットワーク

2 教育活動の状況（重点項目①教育課程、④生徒指導・教育相談）

□実践学習（キャリア教育）の状況について

3年生の「実践学習Ⅰ」では、夏季休業中に7名全員が職場体験を実施することができた。また、地域と連携した課題解決の学びの実践として「谷矢部池公園竹灯籠祭りの運営委員への参加」「戸塚区役所：生活困窮制度普及デザインの検討」「踊場ねこまつり：お祭りを盛り上げる方法について検討」を実践。機会や課題の提供ではなく、過程において協働して取り組んでいただいたことで生徒の主体性が大きく引き出すことができ、学びの深まりがあった。

□地域・関係機関との連携の状況について

* 踊場地区センター等のお祭り運営ボランティアへの参加

令和6年2月4日(日)に踊場地区センター祭りに生徒が会場案内等でボランティア参加。また、校内で発行している「やかん」を展示し、本校の活動をアピールする機会もいただいた。

生活面で課題を抱える生徒が多く、社会的自立を支援する取組みの推進が課題である。生徒と地域や区役所等との接点を作り、困ったときに頼れるように地域活動への参加の機会を通して連携を推進していきたい。

* 「実践学習Ⅰ」実習機会の提供

職業体験先の確保について機会の提供や情報の提供など、さらに連携の推進を目指す。

* 今後の連携に向けて

卒業後の自立を見据えて社会とつなげる取組の実践を目指したい。

・ 地域の中小企業にインターンシップ

インターンを卒業単位に設定し、学びとして仕事に触れる経験をさせる。

・ バイターン（アルバイト+インターン）の模索

自立を見据えると、ボランティアも良いが働くとお金をもらえる経験のほうが必要。インターン⇒アルバイト⇒雇用の流れは、企業にとっても生徒にとっても先を見通しやすい。

3 学校経営について（重点項目④保護者・地域等との連携協力、⑥学校に関する情報公開）

地域からのアンケートの回答にもある「以前と比較してマナーの向上が見られます。」のように、地域や関連機関につながることで、生徒の社会性の成長がみられている。また、学校の持っている教育上の課題や教員の取組についても地域の理解が進んでいる。

4 学校関係者評価 提言（380字以内）

現在の取組に成果と可能性がみられる反面、この取組を継続させていくことが課題になる。教科や特別活動などの「様々な体験をさせる」ことは学校の得意分野だが、課題を抱えた子どもたちが卒業後に自立していくには、在校しているうちから社会や仕事とつなげることが必要。地域と連携した活動の場面では、生徒に任せる役割を学校教員と考えたい。

支援や今やっている取組について、地域や関連する機関へアピールすることで機会の充実と推進につながる。体験した生徒が発信できる場面を口コミが良いかもしれないが連合町内会のホームページにリンクで掲載してもらおうなどの協力もできるのではないかな。継続していくことで伝わる機会が増えるので地域や関係機関と連携・協働を推進して戸塚高校定時制の教育活動の充実と生徒の成長を支援していきたい。